

第10回リニア中央新幹線静岡工区モニタリング会議

静岡県中央新幹線環境保全連絡会議 専門部会での対話状況

第24回地質構造・水資源部会専門部会(令和8年3月19日)

第20回生物多様性部会専門部会(令和8年3月26日)

令和8年5月15日

静岡県

1 藤島発生土置き場(設計)【対話項目(2)】

- ・JR東海が検討した藤島発生土置き場での盛土の設計について、内容を確認する。

2 藤島発生土置き場（モニタリング、生態系全体への影響を考慮した対策）

【対話項目(1)・(2)】

- ・JR東海が生物多様性専門部会・生活環境部会委員の意見を伺い、その意見を踏まえて検討した生態系全体への影響を考慮した対策について、内容を確認する。
- ・上記の意見を踏まえ、JR東海が検討したモニタリング計画等について、内容を確認する。

3 リスク管理の手法とリスク対策【対話項目(3)】

- ・要対策土の処理方法として示された封じ込め処理(藤島)に関する、リスクマトリクス・マップを用いたリスク分析等の考え方について確認する。

3 トンネル発生土におけるリスク管理の手法とリスク対策

対話項目1(3) リスク管理の手法とリスク対策

【今回の対話】

○要対策土の処理方法として示された封じ込め処理(藤島)に関する、リスクマトリクス・マップを用いたリスク分析等の考え方について確認する。

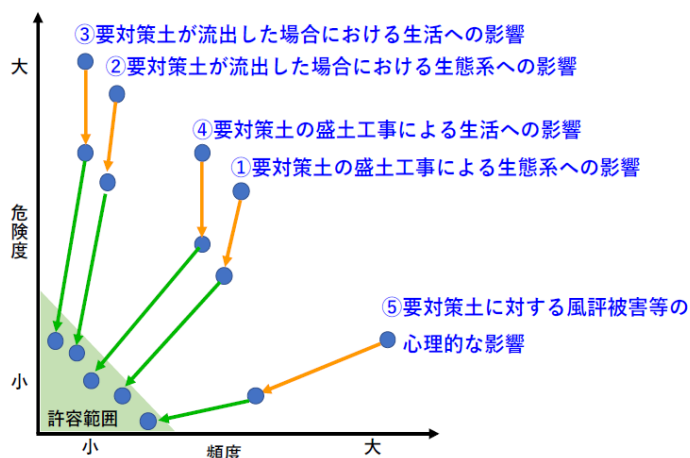
【対話の結果】

○要対策土を盛土することのリスク管理について、工事中、工事後の各段階において、リスクの区分ごとモニタリングや対策が整理され、どのリスクに対し、どの対策を講じるか等が明確化されていることを確認した。

<要対策土のリスクマトリクス(工事中)一部抜粋>

要因	リスク	リスク カテゴリー	モニタリング	対策
自然 改変	要対策土を置くことによる 自然環境の変化	要対策土の 盛土による生態系への影響	定期的な動植物調査の実施による変化の有無の確認	ボーリングによる前方探査結果の活用により 地質を確認し要対策土量を把握 など
崩壊	盛土崩壊に伴う要対策土の流出	要対策土が 流出した場合における生態系への影響	地震・豪雨後、定期的な点検	地盤の安定処理工の実施 、浸出水の速やかな排除に向けた 排水設備計画 など
水質 への 影響	要対策土や浸出水が流出した際の河川水質の変化による 飲み水としての利用への影響	要対策土が 流出した場合における生活への影響	河川水・地下水の水質観測 など	観測井設置 、盛土内浸出水 処理設備の設置

<要対策土のリスクマップ(工事中)>



<出典> 第24回地質構造・水資源部会専門部会 JR東海説明資料

⇒対話項目1(3)について、対話完了

<出典> 第24回地質構造・水資源部会専門部会JR東海説明資料を基に県作成

第20回生物多様性部会専門部会での対話内容

※赤字は本日説明する項目

1 沢の上流域調査【対話項目1(2)】

- ・上流域調査の結果を踏まえて重要種等を決定する(流量減少が予測される沢(8沢)を除く残り分)。また、今後の調査計画等を確認する。

2 代償措置【対話項目3(3)】

- ・第13回生物多様性専門部会で基本的な考え方を合意した代償措置について、具体的な内容を確認する。

3 大井川本流の水質変化【対話項目5(3)】

- ・大井川に放流するトンネル湧水に含まれる自然由来の重金属等の扱いについて確認する。

4 モニタリング【対話項目1(3)・(4)、2(4)・(5)】

- ・生物、物理現象等に関するモニタリングについて、目的、具体的な方法、場所、頻度、観測値間の関連性等を総括的に確認する。

5 順応的管理のシナリオ【対話項目2(6)】

- ・第13回生物多様性専門部会で合意した順応的管理のシナリオについて、具体的な行動計画案、管理フロー案等を確認する。

2 代替措置

対話項目3(3) 生物への影響を予測し、「損なわれる環境の「量」と「質」を評価した上での、「それに見合う新たな環境の創出」等の環境保全措置

【今回の対話】

- 具体的な取組の対象、場所、規模等や、重要種に対する保全措置を確認する。
- JR東海の代償措置が、工事に伴う自然環境の損失と同等以上か検討する。

【対話の結果】

- JR東海が実施するネイチャーポジティブ貢献措置が、工事に伴う自然環境の損失と同等以上の自然環境の保全・創出が期待できることを確認した。

<損なわれる可能性のある南アルプスの自然環境とネイチャーポジティブ貢献措置>

損なわれる可能性のある南アルプスの自然環境

重要種の減少

生息・生育場の減少

- 損なわれる可能性のある生息・生育場面積
 - ・ トンネル掘削に伴い損なわれる可能性のある沢の水生生物の生息場面積：約0.9ha^{※1,2}
 - ・ トンネル掘削に伴い損なわれる可能性のある沢の植物の生育場面積：約0.8ha^{※1}
 - ・ 地上改変に伴い損なわれる可能性のある植物等の生息・生育場面積：約24.0ha 計 約25.7ha
- ※1：解析や特定の衛星画像による判定によるものであるため、不確実性がある。（例：影響面積の算出に使用した解析において前提とした主要な断層の透水係数は1.0E-6(m/s)。トンネル湧水の低減措置として計画している棄液注入により主要な断層の透水係数は1.0E-7(m/s)となる可能性もある）
- ※2：現時点で予測可能な沢の水生生物への影響であり、河川本流の水生生物への影響は含んでいない。

- ▶ 現時点の見込みであり、モニタリングを行い、影響の程度を確認していく。

ネイチャーポジティブ貢献措置

【自然環境保全・創出措置】

個々の重要種に対する保全措置の実施

生息・生育場の保全・創出

- 保全・創出することができる可能性のある生息・生育場面積
 - ・ 沢の生態系の保全・創出：約0.03ha+α
 - ・ 本流の生態系の保全・創出：約0.4ha
 - ・ 重要種の保全：約0.2ha
 - ・ 高山帯の生態系の保全：約4.6ha^{※3}
 - ・ 森林の生態系の保全・創出：約26.1ha+α 計 約31.3ha
- ※3：防鹿柵設置候補地の範囲（現時点で想定される最大面積）であり、今後関係者と相談し、実施可能な範囲で柵の形状や大きさ、配置方法を検討する

- ▶ 現時点の見込みであり、保全・創出措置を実施した箇所のモニタリングを行い、保全・創出した生息・生育場面積を再評価していく。また、今後の検討次第で更に拡大できる可能性がある。

+

【調査研究・利活用推進活動】

調査研究や調査技術の開発等への支援

調査結果の公開、活用への協力

自然体験・学習の場の創出

観光施策や利活用への協力

等

- ▶ 現状において南アルプスの自然環境が抱える課題も踏まえ、南アルプスのネイチャーポジティブに貢献する

⇒対話項目3(3)について、対話完了 <出典> 第20回地質構造・水資源部会専門部会 JR東海説明資料

5 順応的管理のシナリオ

対話項目2(6) 突発的な事態への対策(リスク管理)

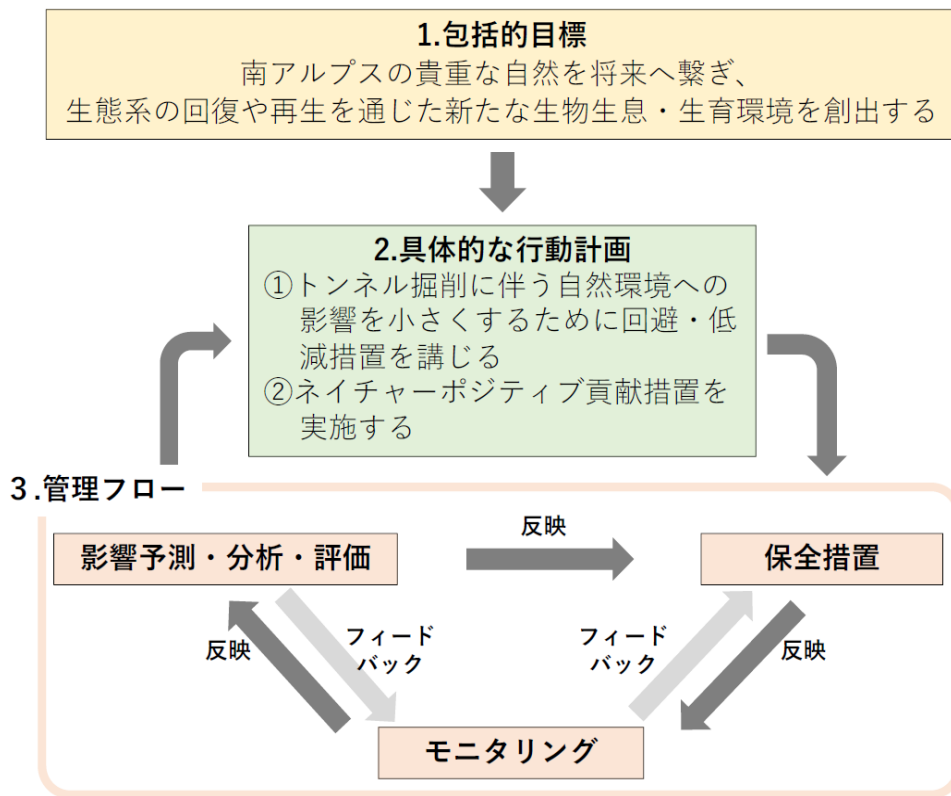
【今回の対話】

- 沢の水生生物等への影響、水質変化及び水温変化による底生動物への影響に関する具体的な行動計画※案及び管理フロー案を確認する。
- 全体構成、及び全ての具体的な行動計画と管理フローを確認する。

【対話の結果】

- 順応的管理のシナリオが、適切であることを確認した。
- ⇒対話項目2(6)について、対話完了

<順応的管理のイメージ>



<出典> 第20回 生物多様性部会専門部会 JR東海説明資料

※ 具体的な行動計画

- Ⓐ 沢の流量減少による水生生物への影響 B: 河川本流の流量減少による水生生物への影響 C: 稜線部やカール部における高山植物への影響 D: 高山高部の湧き水
- Ⓔ トンネル湧水の放流に伴う水質(SS・自然由来重金属)変化による底生動物等への影響
- Ⓕ トンネル湧水の放流に伴う水温変化による底生動物等への影響 G: 地上改変による植生等への影響